

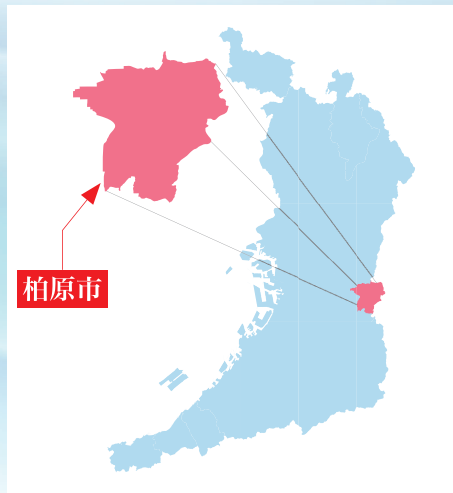
柏原市

柏原駅東地区及び大阪初のスマートインターチェンジ ～地域と協働で進めるまちづくり～

柏原市では、人口減少や商工業の低迷といった課題に対処するためのまちの活性化が不可欠で、「第5次柏原市総合計画」や「柏原市都市計画マスタープラン」などでまちづくりの方向性を位置づけ、その取組を進めています。

そのような中、柏原駅東地区については、本市の玄関口として駅前のポテンシャルを十分に発揮するため、道路や住環境の整備、商店街の活性化を図る必要があります。

また、スマートインターチェンジについては、地域産業の振興、防災体制の強化、円滑な交通の確保などの必要性から、検討を進めてまいりましたが、大阪府内では初となる国による準備段階調査に着手することとなりました。



■柏原駅東地区のまちづくり

「都市のにぎわいとうるおいを活かしたまちづくり」
をコンセプトとし、以下の方針により整備を進めます。

柏原駅東地区のまちづくりの
詳細はこちら



■整備方針

道路・交通整備の方針

鉄道とバス、タクシー送迎車等の乗り換え利便性や安全向上を図るため、駅前広場やアクセス道路を整備します。また、持続可能な公共交通機能の確保を目指して、公共交通結節機能の充実、地域の公共交通の利便性向上を図ります。

にぎわい空間の整備方針

柏原市民文化センターについては、耐震・長寿命化整備に合わせ、交流が可能な立ち寄りやすいオープン施設を目指します。また柏原駅と堅下駅の乗り換え動線をゆとりある歩行空間に整備することより通過型から滞在型の道路空間へ転換を検討します。

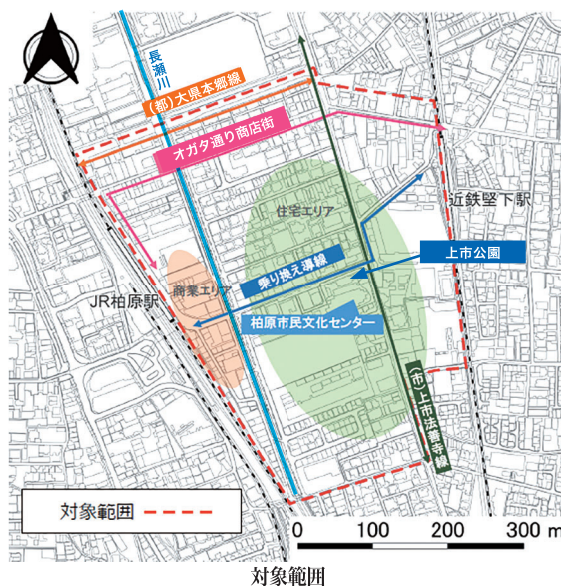
住環境整備の方針

上市公園については、柏原市民文化センターとの一体的な整備により良好な景観づくりに取り組めます。また長瀬川 の環境整備、美しい景観形成に向け既存施設改修や休憩スポットの設置、植栽の検討のほか、イベントの開催などを検討します。

整備コンセプト

(ア) 柏原駅東地区の全体テーマ(コンセプト)

都市のにぎわいとうるおいを活かしたまちづくり



～国によるスマートインターチェンジの新規準備段階調査着手箇所決定～

■スマートインターチェンジ

令和6年9月6日、国土交通省は、スマートインターチェンジの高速道路会社への事業許可および準備段階調査着手について発表し、このうち近畿自動車道天理吹田線（藤井寺IC～香芝IC間）において、大阪府内で初めて柏原市が新規準備段階調査着手箇所決定されました。



柏原市の
スマートインターチェンジ
の詳細はこちら

■期待される整備効果

スマートインターチェンジが整備された場合、以下の効果が考えられます。

○地域産業の振興

近隣の企業団地等から西名阪自動車道へのアクセスが向上し、企業誘致や地域雇用の促進など地域産業の活性化が期待できる。

○防災体制の強化

大雨時、通行止めになる国道25号等の代替道路になり、大阪府中部広域防災拠点（八尾空港隣接地）へのアクセスが向上するなど防災体制の強化に繋がる。

○円滑な交通の確保

交通の分散化が図られ、藤井寺IC周辺や国道25号の渋滞緩和に期待できる。

○観光の振興

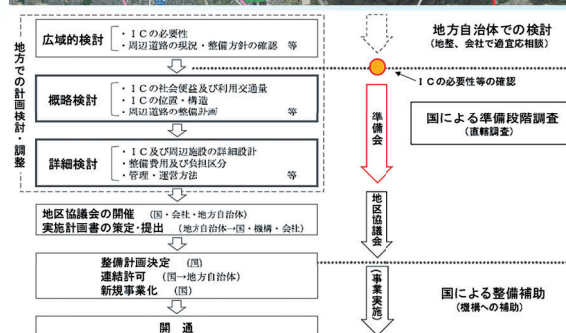
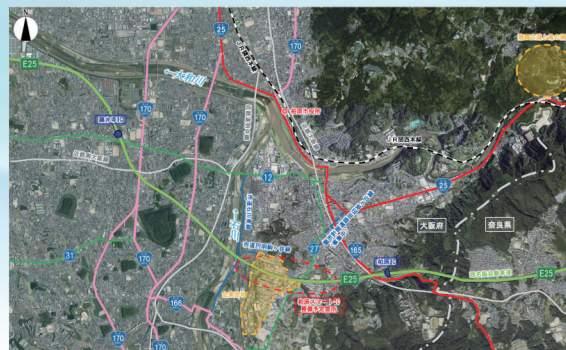
日本遺産「龍田古道・亀の瀬」などの史跡や観光ぶどう狩りなどへのアクセスが向上し、観光客のさらなる集客アップに期待できる。

○救急活動の支援

救急告示病院である奈良県の天理よろづ相談所病院へのアクセス性が向上し、搬送時間の短縮に期待できる

○地域連携の強化

奈良県三郷町と連携した「かわまちづくり」、柏原市役所前の大和川河川敷における「河川空間のオープン化」など、観光周遊ルートが形成され、観光の促進や地域連携の強化が期待できる。



上市公園



柏原駅東口ロータリー

■今後の進め方

柏原駅東地区及びスマートインターチェンジは、柏原市のまちづくりに大きく寄与するものであることから、まちづくりワークショップなど、定期的な意見交換の場を設けることにより、住民・事業者・行政が協働し、これらの取り組みを推進します。

■民間企業や市民に期待すること

柏原駅東地区が玄関口としてふさわしいにぎわいのある市街地となり、また、スマートインターチェンジの導入により周辺地域の再生及び市域全体の活性化につながるよう整備を進めます。

また、これらの整備にあたっては、柏原市に愛着をもっていただけるよう事業者の提案と市民の意見との調和のとれたまちづくりを目指していることから今後も本市の取り組みに注視いただくことを期待しています。